

奈の良

16

2022年6月号

KASHIHARA
橿原市



カフェや神社好き
にピッタリ!

橿原の名所には
美味しいものや新しい発見が
あなたを待っている。

僕もまってるにゃーん!

- ★ 今井町(カフェ睦月・今井まちなみ交流センター華薨・旧米谷家住宅).....1-2
- ★ 橿原神宮・久米寺.....3-4

今井町とは？

橿原市今井町。ここは江戸時代からの町家と町の風景をそのまま残した町として知られています。称念寺しょうねんじというお寺を中心に成立したこの町は、およそ500年の歴史を持ち、2017年には「竹内街道・横大路」の構成文化財の一部として、文化庁の日本遺産に認定されました。今回の取材では、今井町の住民の方に話を聞き、町の魅力をさらに探ってみました。今井町の歴史について学びながら私と一緒に散策してみたいかがででしょうか。

カフェ睦月

まずはお洒落なカフェから散策スタート。外見から見ていくと、周りの町家とはあまり変わりはなく、落ち着いた店構えですが、よく見るとかわいらしい物たちがどんどん目に入ってきます。猫のイラストが看板に書かれてあり、2階のバルコニーには金魚の風鈴がぶら下がっています。



店の暖簾をくぐってみると、店内はこじんまりとして、落ち着いた雰囲気。昔からの町家の風情を保ちながら、お洒落なインテリアで溢れています。入ってすぐのところには、お箸や箸置き、お皿、アクセサリなどの雑貨が並んでいます。



この店のオーナーである小林朱実さんは、看板猫のココちゃんと共にカフェを営んでおられます。これまでの経験や今井町の魅力についてインタビューに答えていただきました。

1. 今井町にお住まいということですが、今井町に住んでから、また、こちらのお店を始めてから何年目ですか。なぜお店を始めようと思いましたか。

カフェを開業するまでは大淀町に住んでいましたが、開業と同時に今井町へ移住し、4年目になります。カフェを開こうと思ったきっかけは、元々、料理を作ることが好きで、以前は別のカフェで働いていましたが、働いていくうちに自分のアイデア、スタイルで働きたいとの想いが徐々に強くなり、開業することを決めました。

2. コロナ禍で減っていると思いますが、海外からの観光客も来られますか。

海外から来られる方はコロナ前から少なかったです。来られる方は奈良や京都の有名な観光地を既に回っていて、さらに良いところはないかと探して来られた方ではないかと思っています。

3. 外国人や県外の方が今井町を訪れたとき、これは知ってほしいといったことがあれば教えてください。

今井町の道は敵が攻め込んできたときに備えて、わざと見通しが悪くなるように作られています。それも魅力の一つだと思います。特に、初めて来た人にとっては複雑な道に迷うこともあるかと思いますが、迷うことも今井町の良さです。迷いながら今井町探検を楽しんでいただきたいです。

インタビューの後、カフェ睦月限定の和風デザートを提供していただきました。カフェ睦月の看板メニューである「睦月ティラミス」には、チーズクリーム、あんこ、抹茶ようかん、干し柿などが中に入っています。上には「駒つなぎ」という、今井町のシンボルマークがココアパウダーで描かれてあり、器には小林さんの義理のお兄さんが作った杉の木の枡が使われているなど、豪華な仕上がりになっています。



店の雰囲気を味わいながらデザートや奈良県産ほうじ茶を楽しみ、江戸時代の町家にタイムスリップしてみるのはいかがでしょう？ぜひ今井町の旅をここからスタートすることをおすすめします。

今井まちなみ交流センター はないらか「華蕨」

カフェでゆっくりしてから、今井町の歴史を知るため、今井まちなみ交流センター「華蕨」へ向かいました。明治時代に建てられた「華蕨」の外観は壮大で、自分がまるで小さくなったかのように感じられました。



華蕨の外観

館内では、まず榎原市観光協会の増田高之さんとボランティアガイドの加藤千恵子さんが、今井町の模型が置いてある展示室へと案内してくれました。模型を見た瞬間、建物の正面で小さくなった自分が巨人にでもなったかのように感じられました。模型の今井町を上から覗き込みながら、今井町の歴史について加藤さんから話を聞きました。



加藤さんによると、今井町というのは、鎌倉時代の末期には興福寺の荘園でした。往時はお米はもちろん、綿も重要な農産物でした。その後、室町時代に入ってから一向宗の布教のために称念寺周辺に信者が集まり、寺を中心とした町が発展しました。寺内町だったため、税金がかからず町の中で商売が自由にできました。江戸時代になると今井町は経済的に豊かになり、次に紹介する町家（旧米谷家住宅）の当時の所有者も裕福だったと考えられています。

タイムスリップしたかのような、贅沢なひととき。今井町へお越しの際には、ぜひ「華蕨」を訪れてみて、町の模型を見ながら自分なりの今井町探索を企画してみてください。

旧米谷家住宅

「華蕨」を出て次に向かったのは、ここ旧米谷家住宅。18世紀の半ばに建てられたこの町家の中には、気になる特徴がいくつかありました。

敷居をまたいで中へ入ると、まず広々とした土間があります。天井が非常に高いため、住宅というよりも倉庫に近い印象です。縁側に進んでいくと、外に立派な井戸があり、ガイドさんによると、これは裕福であるという証拠として解釈できるそうです。町の井戸を使わずに自宅に井戸があると、手間もかからず自由に水を汲めるので便利です。

中の土間へ再び戻ると、いくつかの特徴が気になりました。まず1つ目は、かまどの数です。2つぐらいなら不思議ではありませんが、ここ旧米谷家住宅には5つもあり、形が勾玉まがたまの



ように曲がっています。これは「勾玉型かまど」というらしく、調理する人にとって使い勝手の良い形状になっているのがポイントです。ガイドさんに聞いてみたところ、かまどが曲がっているのは調理する人が火加減を確認しやすくするため、5つもあるのは、主人と使用人が別のものを食べていたため、かまども使い分けていたのではないかということでした。

かまどから右の方へ進んでみると、梯子があります。取材の前に気になって調べてみたところ、梯子をのぼった上のスペースは寝泊まりの場所として使われていたということでしたが、その使用法は謎のままでした。しかし、実際に旧米谷家住宅を訪れてガイドさんに聞いてみると、上のスペースを使って寝泊まりをしたのはここで働いていた丁稚で、夜になると彼らが家出できないよう、梯子は取り外されていたそうです。厳しい主人の下で働いていた丁稚はどんな人物だったのか、益々気になりました。

最後に、米谷家が当時、どういった町家だったかを探るヒントとして、シモミセ（お客の待機場所や荷物置き場）が残っています。こうしたことから、ここ旧米谷家住宅は住居だけではなく、商売を行うところでもあったということがわかります。どんな商売に関わっていたかということ、おそらく金物商売、特に農機具や農業関連品を扱っていたそうです。このことを聞いて、ここに住んでいた人々の生活を知るパズルの大事なピースが埋まった気がしました。

土間をもう一度回ってみると、家の中に鳴り響いていたであろう金物のガンガンという音や常連に接する店主の親しい笑い声、かまどのコトコトとした音や出汁の匂い、丁稚が梯子を降りるときのキキキという音などが蘇ってくるようで、当時の米谷家での暮らしを想像することができました。

がらがらと外への戸を開けて町へ再び出ると、午後4時。ガイドさんにお礼を言い、もう一度外から立派な町家を眺めました。日が沈みそうな空を背景に、町家は堂々と立っていました。この時間帯に今井町を行き交う人たちはほとんどが住民だそうで、軽く挨拶を交わす人々を見るだけでほっこりした気分になりました。実際に住んでいる方の町家の中にはエアコンや暖房、テレビなど、今の時代に欠かせないものがきっと備え付けられているとは思いますが、カフェ睦月の店主さんや案内してくれたガイドさんの丁寧な説明や笑顔を思い出すと、何百年前の人のやさしさやおもてなしの心が今なおそのまま残っているような気がしました。ここにまた戻ってきたい、と思いながら駅へ向かいました。



3 橿原神宮



橿原神宮とは？

橿原神宮は奈良県の有名な神社で、ご祭神は神武天皇と媛蹈鞰五十鈴媛皇后です。古事記と日本書紀では、神武天皇は第1代の天皇であると伝えられ、その即位は紀元前660年とされています。橿原神宮によると、主なご利益は開運・招福と健康・延寿です。なぜかという、神武天皇が様々な困難を乗り越え、第1代天皇として即位できたのは、大変運勢が強大だったからです。さらに、日本書紀によると、神武天皇は127歳で崩御したと言われており、寿命が大変長かったことが伝えられています。

橿原神宮は、かつて橿原宮があったとされる畝傍山の麓に建てられており、神武天皇はそこで即位したとされています。橿原神宮の建築は、木の地肌や風合いをそのまま活かした造りで、素朴で優美、背景の森とも非常に調和しています。屋根は檜皮葺という檜の樹皮を使った技術でできています。このような建築を素木造りと言います。



表参道に着くと、まず高さ約10メートルの檜の鳥居に魅了されます。そして表参道の両脇には、カシの木が植えられています。これはもちろん「橿原」の「橿」ですね！参道を進み南神門をくぐり抜けると、広い広場に着きます。そこに外拝殿があります。



外拝殿ですぐに目を引くのが大絵馬です。千支が描かれた大きな絵馬で、橿原神宮によると、この大絵馬は天皇陛下のご生

誕を祝って、1960年に初めて作られました。その高さは約4.5メートル、幅5.4メートル。迫力がありますね！

橿原神宮の特徴は拝殿が2つあることです。一般参拝者は外拝殿で参拝しますが、特別な儀式の時には内拝殿を使います。

神武天皇の伝説

神武天皇は神話に出てくる伝説上の人物と伝えられています。古事記と日本書紀によると、神武天皇は天照大神の5代後の子孫です。紀元前711年に生まれて、現在の宮崎県で育ちました。45歳の時、九州を出て大和に赴くことにしました。

しかし、その旅は困難だらけでした。道中で待ち構えていた長髓彦という人物に敗れます。敗北したのは日神の御子である自分が、太陽に向かって戦ったためだと反省し、紀伊半島を迂回して、宇陀から大和盆地に入りました。再び長髓彦と戦っている時に、金鷄というまばゆく輝く鷄が現れました。長髓彦たちはまぶしくて目もあけられず、降参しました。

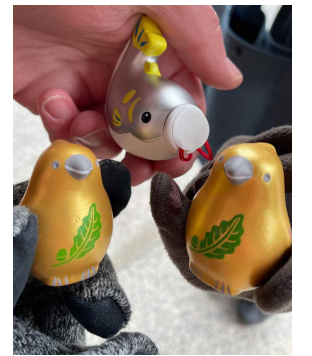
その後、畝火の白橿原宮※1で即位して、天下を治めることとなりました。



宝物館（写真提供/橿原神宮）

おみくじ

このおみくじを見てください。すごく可愛いですよね。橿原神宮では、通常のおみくじに加えてこの金鷄と鮎のおみくじを受けることができます。金鷄は先に説明したように、神武天皇を助けた鳥ですが、この鮎には何の意味があるのでしょうか？橿原神宮によると、神武天皇は大和平定の折、戦勝祈願のために訪れた丹生川上の地（現在の東吉野村）で、「御神酒の瓶を川に沈め、大小の魚が浮き上がれば、大和の国を平定して治めることができるだろう」と、占いを行いました。結果は、お酒に酔った魚が浮かび上がり、吉兆と出ました。「魚」に「占」を書くと「鮎」の字になります。このように、鮎は神武天皇と深い関わりがあります。橿原神宮へお参りする時はぜひおみくじを試してみてください。



橿原神宮はとても美しくて趣があり、自然に調和した神社です。また、境内には宝物館もありますので、興味のある方は見学してみたいかがでしょうか？

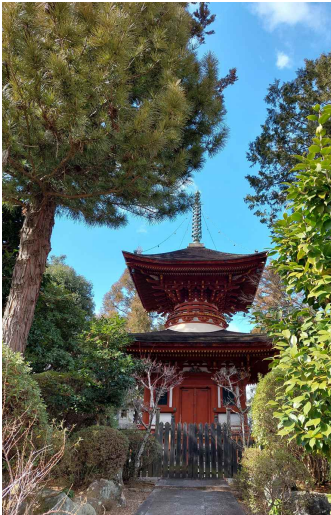
※1 畝火の白橿原宮・・・奈良県橿原市畝傍山周辺の地



久米寺とは？

久米寺は檀原市にあるお寺で、参拝すると落ち着いた気持ちになります。また、とても面白い歴史と伝承があります。

久米寺は真言宗の寺院です。境内の中で、特筆すべきは本堂と多宝塔です。現在の本堂は1663年に建立されて、ご本尊は薬師如来です。



多宝塔は1659年に京都の仁和寺から移築されたということですが、禅宗の影響が見られる建築で、重要文化財に指定されています。ところで、多宝塔とは何かご存知ですか？簡単に言えば、それは密教（真言宗と天台宗）のお寺にある仏塔です。

建物だけではなく、庭もとても綺麗です。色々な花や植物が植えられており、一年を通して綺麗な景色が楽しめます。中でもあじさいは特に人気がありますので、6月に訪問されることを特にお勧めします。

久米寺の創建

寺院がいつどのように創建されたかは諸説ありますが、発掘調査で出土した瓦によると、創建は白鳳時代（7世紀後半から8世紀初め）に遡ると言われています。また、お寺の名前は古代の軍事氏族であった久米氏に関連するという説もあります。

久米寺の歴史はとても古く、その創建をめぐる伝説や伝承がたくさんありますので、その一部を紹介します。



久米仙人の伝説

久米寺はさまざまな古典に出てきます。例えば『和州久米寺流記』には、聖徳太子の弟である来目皇子が眼病を治すため、久米寺を建立したと書かれています。そのため、久米寺の薬師如来は眼病に効果があると信じられています。

しかし、最も有名なものは久米仙人の伝説です。『今昔物語』や『徒然草』などには、久米の仙人という空を飛ぶ架空の仙人によって建立されたとあります。面白い話ですので、紹介します。

久米仙人は欽明天皇の時代に生まれたとされています。吉野山の麓にある龍門ヶ獄で厳しい修行を積み、飛行術を手に入れて、空を自由に飛べるようになりました。

ある日、空を飛んでいる最中に、川で洗濯している美しい女性のふくらはぎを見た途端、神通力を失って空から落ちてしまいました。それ以来、その女性と結婚して、俗人として暮らしました。しかし、聖武天皇が東大寺に大仏殿を建立しようとする時、久米仙人は仙力を回復して、不思議な能力を使って国々にある木材と石を大仏殿まで空に飛ばして集めました。そのお礼として、聖武天皇は久米仙人に荘園を与え、その荘園に久米寺が建立されたということです。

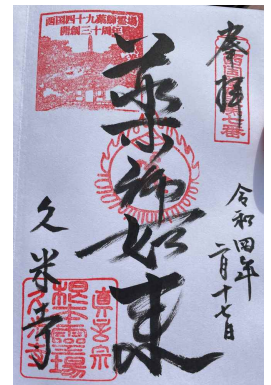
この伝説は人気があって、本堂の左に久米仙人の石像があります。また、久米仙人の伝説が描かれた絵馬を買うこともできます。



御朱印

これは久米寺の御朱印です。御朱印とは何かご存知ですか？お寺や神社で、初穂料として決められた金額を納めると、参拝の証として御朱印帳に書いてもらえます。御朱印はスタンプラリーではありませんので、御朱印をいただく前に参拝することを心がけていただければと思います。

久米寺の御朱印には、本尊の「薬師如来」の名前とその梵字が書かれています。久米寺を参拝するときは、御朱印をいただいてみてはいかがでしょうか。



編集後記

「奈の良」とは？

「奈の良」は、外国人の目線で見えた奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たち奈良県庁国際課の国際交流員が奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。

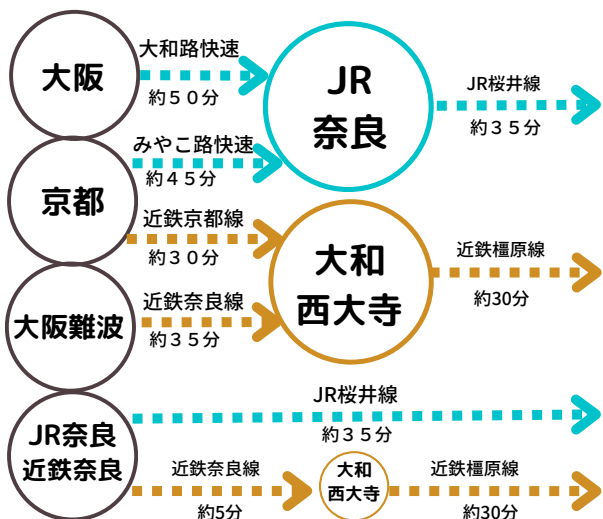
本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。

エリアマップ



アクセス

電車を利用する場合



橿原市

車を利用する場合

大阪から：約50分
京都から：約1時間30分
奈良から：約40分

} 橿原市まで



ジョンソン・サマンサ (写真右)



今回取材した橿原市今井町には長い歴史があり、奈良市内にあるならまちのように素敵な町屋がたくさん残っている所です。カフェ巡りが趣味ということもあり、今回は今井町にあるカフェ睦月を取材しました。さらに歴史を学ぶためにまちなみ交流センター「華蕨」や旧米谷家住宅という町屋にも行って見ました。

読者の皆様にも奈良県のユニークな旅先として今井町をお勧めします。

ロード・ギエム (写真左)



橿原市は大和盆地の南にあって、古代日本の中心でした。是非、歴史好きな方にお勧めします。この街は今回紹介したところ以外にも、藤原宮跡をはじめとした魅力溢れる遺跡がたくさんあります。

取材した時にも、かわいい猫が出迎えてくれました。この街の主だろうかと思いましたが、散歩がてら、この歴史ある街を見学してみませんか？

Special Thanks

今回の取材にあたり御協力いただいたカフェ睦月、街並み交流センター「華蕨」、旧米谷家住宅、橿原神宮、久米寺の方々にお礼申し上げます。

『奈の良』 Na no Ra

発行元：奈良県知事公室国際課
発行：令和4年6月
本誌に関するご意見、ご質問等は
こちらへご連絡ください。

〒630-8501
奈良市登大路町30 奈良県知事公室国際課
TEL: 0742-27-8477
FAX: 0742-22-1260

